

### (3) 武者絵（古代、合戦図、伝記、物語絵を含む） \*中国史、神話の人物を含む

古代の歴史や合戦、これらに関する物語を扱ったものが200点近くあり、珍しいものでは中国の三国志にある諸葛孔明の「出師の表」の絵馬が寺井・奥野八幡神社にある。

このうち特に多いものが義経をはじめ源平の人物や合戦の絵馬で約80点になる。「平家物語」「源平盛衰記」「義経記」などをもとに脚色した能、浄瑠璃、歌舞伎は数多い。絵馬のうち画題不明のものが数点あるが、これらの舞台を描いたものがあると思われる。

「忠臣蔵」については「仮名手本」のほかにも赤穂事件を扱った演目が数多く、絵馬の場面にも微妙な相違がある。

(表3) 武者絵・物語絵の画題別分布表

源平合戦、源平武者	39
義経（牛若）・弁慶、常盤御前	22
南北朝、楠公父子、新田義貞他	20
戦国、石山合戦、川中島他	8
物語・大戦冠（珠取姫伝説）	8
物語・大江山酒吞童子、渡辺綱他	11
物語・芝居、曾我物	2
物語・芝居、絵本太功記	2
物語・芝居、忠臣蔵	28
物語・芝居、和藤内	2
その他の物語、歌舞伎絵	8
説話（浦島、一寸法師他）	4
その他（内容不明）	43
計	197

#### ①歴史・人物（古代）



34 大絵馬・諸葛孔明「出師の表」 寺井・奥野八幡神社 明治33年(1900) (115×185)

中国の史書『三国志』の有名な場面である。

「出師の表」とは出陣に際しての表明で、建興5年(227)、諸葛亮(孔明)が北方の魏に遠征する前に、国に残す若い皇帝劉禪に奉った上奏文。自分を登用してくれた先帝劉備に対する恩義を述べ、あわせて若き皇帝である劉禪を我が子のように諭し、自らの報恩の決意を述べた文である。



35 <sup>しょうき</sup>鍾馗像 大長野・八幡神社 年代不詳 (137×75)  
鍾馗は元々中国の道教系の神。鍾馗の図像は魔よけの効験があるとされる。馬図 11 と同じく高田嶺山の作。



36 天孫降臨図 荒屋神社 年代不詳 (60×80)  
高千穂の峰に神々が降り立つ様子を描く。有名な画題であるが市内にはこの1点のみ。  
作者は小松須天熊田神社の宮司・尾坂正康氏。



37 <sup>じんぐこうこう</sup>神功皇后・<sup>たけのうちのすくね</sup>武内宿祢  
下ノ江・八幡神社 元治2年(1865) (70×90)  
(根上展)

神功皇后が韓国に渡る際の様子を描く。付き従うのが武内宿祢。皇后の子が応神天皇で市内多くの神社の祭神となっている。



### 38 神功皇后・武内宿禰

和佐谷神社 大正2年(1913) (90×100)

この絵柄は神社の幟旗にもよくみられる。渡韓の際に皇后は応神天皇を身ごもっていたという。



### 39 神功皇后渡韓図額

小長野・八幡神社 明治21年(1888) (60×180)

牧野伝三郎の作。伝三郎は十村・牧野孫七の末弟で、文政9年(1826)生まれ、絵画はもとより詩歌もたしなみ、書道、華道、茶道、囲碁、謡曲の大家でもあった。



### 40 素戔鳴・八岐大蛇退治

灯台笹・笹葉天照皇神社 明治15年(1882) (70×90)

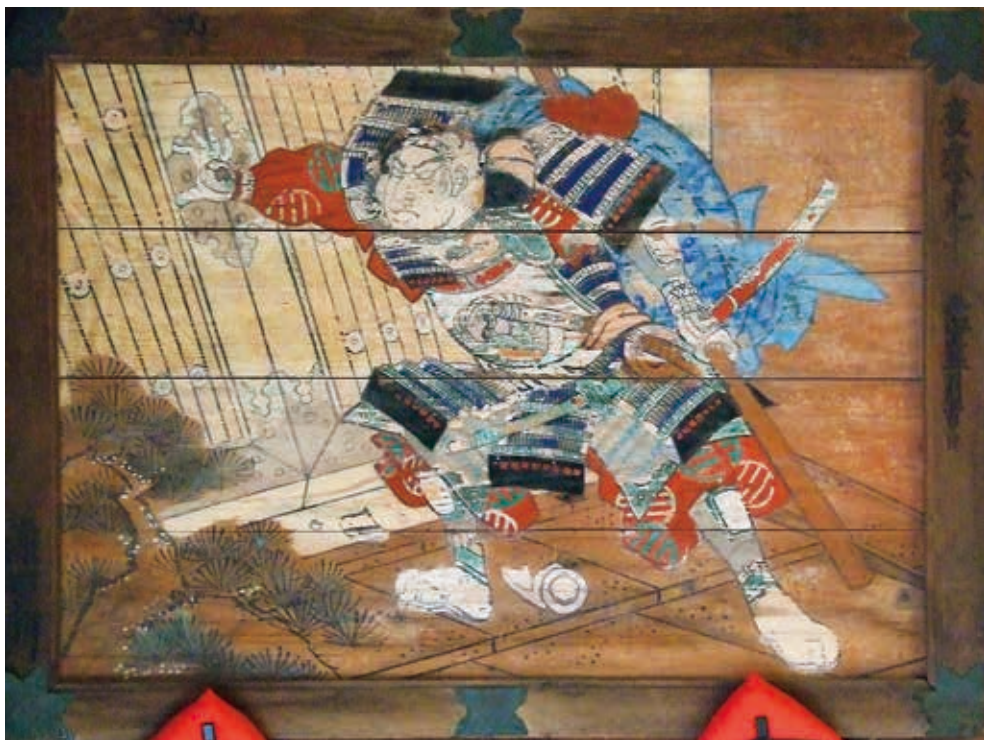
素戔鳴命は天照大神の弟にあたる。出雲へ降り立った素戔鳴は田畑を荒し娘をさらう大蛇を退治して奇稲田姫と結ばれる。

## ②歴史・人物（源平以前）



41 親鸞絵伝(華和讃新羅源氏) (H15) 西任田・西大御神社 年代不詳 (55×160)

この絵馬は真宗寺院に伝わる「親鸞絵伝」とは異なり、親鸞の生涯を脚色した浄瑠璃物語「華和讃新羅源氏」を基に描いたものである。親鸞の生まれが高貴であることから「新羅源氏」という外題となっている。なお真宗寺院には絵馬は飾らない。



42 平将門奮戦図 下ノ江・八幡神社 慶応元年(1865) (75×100)

平将門<sup>まさかど</sup>は平安時代中期の関東の豪族。承平8年(939)、常陸・下野・上野の国府を占領、一時関東を支配下において新皇を称したが、朝敵とされ翌年に平貞盛・藤原秀郷<sup>ひでさと</sup>らに討たれた。江戸時代には将門を祭る神田明神は江戸総鎮守として重視された。



#### 43 八幡太郎出陣図

粟生八幡神社 年代不詳  
(60×80)

八幡神社は源氏の氏神。源義家は平安時代後期の武将。義家が岩清水八幡宮で元服したので「八幡太郎」と号した。源頼朝、足利尊氏などの祖先に当たる。

#### 44 八幡太郎出陣図

三ツ口・八幡神社  
昭和45年(1970) (80×100)

義家は知勇に優れた武将で、東北地方の豪族である安倍氏らとの戦い「前九年の役」「後三年の役」などで活躍した。



## ③歴史・人物（源平関係）

源平合戦や義経の生涯は「平家物語」「義経記」「源平盛衰記」などの物語を題材に、能、浄瑠璃、歌舞伎として脚色されている。



45 大江山酒吞童子 寺井・奥野八幡神社 弘化3年(1846)

丹波の国（京都府北部）の大江山に棲む鬼・酒吞童子一味を源頼光、渡辺綱、坂田公時ら豪勇の武士たちがやっつけ、さらわれた姫たちを救い出す物語。



46 大江山酒吞童子 牛島・八幡神社 安政2年(1855) (80×180)

物語の筋書きが丹念に描かれている。



47 大江山酒呑童子 吉原・熊田神社 年代不詳 (90×178)  
左上の赤い下着の大男が酒呑童子。



48 大江山酒呑童子 仏大寺・八幡神社 年代不詳 (100×180)  
わかりやすい筆致で描かれている。



49 大江山酒吞童子 (H15)

赤井・赤濱神社 昭和42年(1967)

鮮やかな色彩で描いた絵巻風な絵馬である。



50 大江山酒吞童子 (H15)

高坂・白鬚神社 年代不詳

非常にわかりやすい物語風の絵である。



51 大江山酒吞童子 末寺・白鬚神社 安政4年(1857)

古い絵馬だが非常にわかりやすい絵である。



## 52 渡辺綱鬼退治

下開発・八幡神社 年代不詳 (75×80)

能「羅生門」の渡辺綱の鬼退治が画題となっている。綱は襲ってきた鬼の腕を切り落とす。歌舞伎「茨木」では一条戻り橋が舞台。あとで茨木童子が腕を取り戻しにくる。

## 53 頼朝・再起の船出

宮竹・日吉神社 大正6年(1917)  
(45×80)

源頼朝は治承4年(1180)4月の拳兵ののち、8月の石橋山の合戦で敗れ、僅かな従者と共に山中へ逃れ、途中敵方の梶原景時の温情にも救われ、同月28日に真鶴岬から船で安房国へ脱出したという。



## 54 俱利伽羅合戦(H15)

西任田・西大御神社 明治11(1878)  
(120×170)  
夢楽洞万司(S58根上展)

寿永2年(1183)、加越国境の砺波山の俱利伽羅峠で源義仲(木曾義仲)軍と平維盛率いる平家軍との間で戦われた合戦で、平家軍の阿鼻叫喚の様子が鮮やかに描かれている。



55 篠原の戦い・実盛一騎打 灯台笹・笹葉天照皇神社 明治20年(1887) (110×190)

寿永2年(1183)6月、倶利伽羅合戦にやぶれ敗走する平家軍の殿を務める<sup>しんがり</sup>斎藤別当実盛は侍大将のいでたちで源氏軍に立ち向かい、最後は手塚太郎光盛に討たれる。平家物語の「連銭葦毛なる馬に…」の記述から、画面右が実盛とわかる。

作者の一勇<sup>ろせつ</sup>斎芦雪(安政2年～大正9年・1855～1920)は金沢の絵師で、<sup>いわおじよしゆん</sup>巖如春と協力して加賀藩の大名行列絵巻を描いたという。



56 宇治川の先陣争い 宮竹・日吉神社 明治15年(1882) (70×160) (小松展)

寿永3年(1184)1月、木曾義仲追討の戦いで、宇治川において佐々木高綱と<sup>かげすえ</sup>梶原景季が先陣を争い、高綱が勝つ。景季は景時の子。



## 57 直実・敦盛一騎打

小杉・白幡神社 年代不詳 (39×42)

敦盛は清盛の末弟で笛の名手。17歳で一ノ谷の合戦で熊谷直実に討たれ戦死。直実はわが子と同じ歳の敦盛を悼んでのちに出家したという。敦盛を主人公にした芝居は数多い。



## 58 源平合戦・一の谷の戦い

北市神社 年代不詳 (100×180)

寿永3年(1184)に摂津国福原および須磨で行われた戦い。ひよどり越えの源氏軍が一ノ谷の平家陣に襲いかかる。画面右がひよどり峠か。

## 59 源平・屋島の戦い(H15)

西任田・西大御神社 明治11年(1878)

(80×90)

屋島の戦いが極彩色で描かれている。54の「俱利伽羅合戦」と同じ絵師の作か。





60 源平・屋島の戦い(H15) 赤井・赤濱神社 不明 (60×180) (根上展)  
陸上から攻められ海へ逃れる平家軍。左に御座船がみえる。



61 源平合戦図・屋島 栗生八幡神社 年代不詳 (80×160)  
扇の的の場面があるので屋島の戦いとわかる。



62 那須与一「扇の的」(H15)  
高坂・白鬚神社 年代不詳

屋島の合戦での有名な場面。与一は海に馬を乗り入れると、弓を構え、「南無八幡大菩薩」と神仏の加護を唱え矢を放った。



63 源平合戦・壇ノ浦 上清水・八幡神社 年代不詳

源氏軍に追われ海へ逃れる平家軍。兵を持ち上げている人物は平家の猛将・教経か。

64 義経八艘跳 (H15)

赤井・赤濱神社 大正甲子(13)(1924)

壇ノ浦の戦いの勝敗も決したのち、平家の猛将・教経<sup>のりつね</sup>は源氏の大將を道連れにと義経を追い回すが、義経は船から船へと飛び移り八艘の彼方へ去った。教経はさいごに源氏の猛者二人を抱きかかえて海に沈む。天巖の絵は市内に数点ある。



65 勧進帳

下ノ江・八幡神社 年代不詳 (72×92)  
(根上展)

能、歌舞伎などで有名な安宅の関が舞台の物語。弁慶の姿に心を打たれて通過を許す富樫の情、義経と弁慶主従の絆の深さが感動を呼ぶ。主君義経を打ち据える弁慶を描く。





66 勧進帳 東任田・東高田神社 年代不詳 (90×170)

東大寺再建のための勧進の一行と弁明し、巻物を勧進帳と偽って読み上げる弁慶を描いている。関所通過後に富樫はあとを追ひ、一行と酒を酌み交わす。



67 義経一行白山礼拝(H15) 福島・日吉神社 昭和44年(1969) (90×158) 双樹園紫石

「義経記」に書かれた「根上り松」の近くで白山を礼拝したという言い伝えがあり、奥州をめざす義経一行の姿を描いたもの。



### 68 鞍馬天狗と牛若丸(魔王の滝) (H15)

西二口春日神社 明治20年(1887)

牛若丸が武術や兵法を学んだとされる鞍馬山。「魔王の滝」と呼ばれる滝の付近で修行中の牛若と天狗(魔王)を描く。



### 69 五条大橋

寺井・奥野八幡神社 明治23年(1890)

有名な「五条の大橋」の場面が華麗な筆致で描かれている。あと一本で千本となる刀狩りをめざす弁慶と牛若丸が対決。



### 70 牛若丸絵巻 末信神社 安政元年推定(1854) (83×170)

牛若とともに奥州へ下る金売り吉次一行を襲った盗賊を牛若丸が討ち果たす場面が左下に描かれている。以下 71～74 の絵柄はよく似ている。



71 牛若丸伝(義経一代記) 粟生八幡神社 文久2年(1862) (90×180)  
中央に五条の大橋、その左下が元服の場面らしく烏帽子が飾ってある。



72 牛若丸絵巻(義経一代記) 大成八幡神社 年代不詳 (90×180)  
鞍馬山、五条の大橋の場面もあり、元服の場面もある。「えぼしや」の文字がみえる。



73 牛若丸絵巻(義経一代記) 岩本神社 年代不詳 (90×180)  
牛若丸の生い立ちから元服までの絵巻と思われる。



74 牛若丸絵巻(義経一代記) 三道山・八幡神社 年代不詳 (85×170)  
画面下は屋敷に押し入る盗賊と、これを迎え討つ牛若たちを描いているようである。



75 義経一代記 岩内神社 年代不詳 (120×175)

合戦も含め多くの場面を描き分けているが、個々の場面は不明である。



76 義経一代記 上清水・八幡神社 年代不詳

七つ道具の弁慶や松の木に吊るした鐘や太鼓が見える。物語の場面か。



77 源平盛衰記 福岡八幡神社 嘉永3年(1850) (105×165) (根上展)

「源平盛衰記」は「平家物語」の異本のひとつで48巻あり、多彩な内容で、能、浄瑠璃、歌舞伎、落語などの題材となっている。



78 源平合戦図 末信神社 安政元年(1854) (75×178) (修復・松村芳明)

画面右上に源氏の笹竜胆<sup>ささりんどう</sup>の紋所がみえることから源平合戦を描いたものと判断される。



79 大絵馬・源平合戦図 出口・八幡神社 年代不詳 (120×340)

市内で一番の大絵馬。ふつうは2枚組となっているが一枚板で作ってある。合戦だけでなく物語のような場面が描かれている。能、浄瑠璃の場面をもとに描いたものか。



80 源平合戦図 金剛寺・富樫八幡神社 年代不詳 (120×180)

これも合戦だけでなく物語のような場面も描かれている。やはり能、浄瑠璃の場面か。



81 源平合戦図1 坪野・八幡神社 年代不詳 (70×170)

他の絵馬よりも鮮やかに描かれている。物語の場面もあるようである。



82 源平合戦図2 坪野・八幡神社 年代不詳 (70×170)

鮮やかな海上の合戦は壇の浦か。右の建物の中の場面は不明。



83 源平合戦図 末寺・白鬚神社 年代不詳 (75×170)

戦いだけでなく物語的な場面がある。



84 源平合戦図 栗生八幡神社 年代不詳 (90×180)

83 とよく似ている。同じ作者か。



85 源平合戦図 栗生少彦名神社 年代不詳 (85×180)

84 とよく似ている。同じ作者か。



86 源平合戦図 徳久・山上郷八幡神社 年代不詳 (120×180)

遠くに海上の合戦が描かれている。



87 源平合戦図 下開発・八幡神社 年代不詳 (90×175)  
左の人物が合戦の様子を思い出しているのだろうか。



88 源平合戦図 小杉・白幡神社 年代不詳 (80×162)  
右上に鳥居が見え、右下に武士が氣勢をあげている。88、89、90とも同じような場面が描かれている。



89 源平合戦図 上徳山・八幡神社 年代不詳 (90×180)

右上に鳥居が見え、右下に武士たちが氣勢を上げている。八幡神社での出陣の様子か。



90 源平合戦1 福岡八幡神社 年代不詳 (115×170)

右上に鳥居が見え、右下に武士たちが氣勢を上げている。源平の時代には立派な城はないのだが…。



91 源平合戦 2 福岡八幡神社 年代不詳 (110×170)  
一の谷の戦いか。右がひよどり峠か。



92 義経一代記 1 大長野・八幡神社 年代不詳 (64×125)  
右上は頼朝との対面の場面か。七つ道具をたずさえた弁慶も描かれている。



93 義経一代記2 大長野・八幡神社 年代不詳 (64×125)  
 右上に一の谷の戦いの場面がみえる。中央下に植木の前にひざまずく人物がみえるが意味は分からない。



94 源平物語 栗生少彦名神社 年代不詳 (70×180)  
 合戦のほかに多くの場面が描かれている。ここも植木の絵(中央)がみえる。



95 源平物語 山田・稲荷神社 年代不詳 (75×170)  
ここにも植木の前にひざまずく人物が右上にみえる。



96 源平物語 金剛寺・富樫八幡神社 年代不詳 (120×180)  
戦いの回想場面から源平関連の物語と思われる。松の木を移動している場面が不明。